

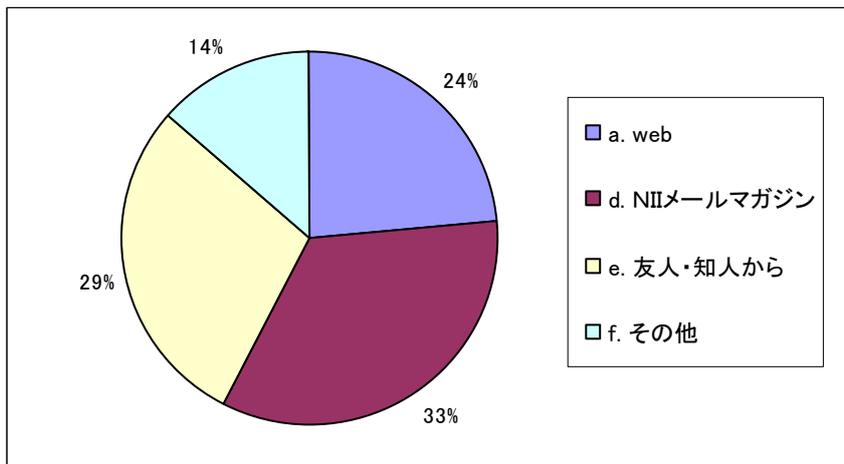
アンケート結果
研究・教育のためのデータ連携ワークショップ(第1回)
The 1st Workshop on Establishing Academic Federation for Data Sharing (AFEDs)
2009. 4. 22 (水)

総回答数:58名 (当日参加人数: 156名 / 事前申し込み人数: 172名)

1) このワークショップを何でお知りになりましたか。 []内は人数 *複数回答あり

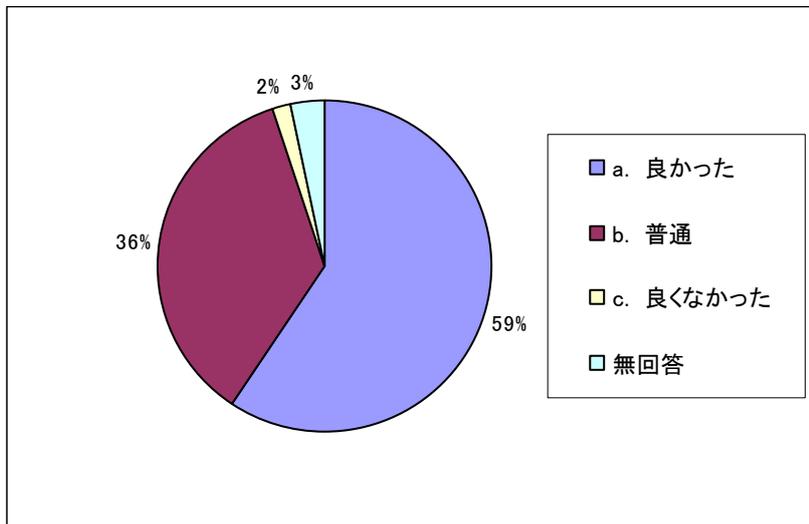
- a. Web サイト[14](NII ホームページ 8)(その他:情報管理のサイト 1)
- b. ポスター/チラシ[0]
- c. 新聞記事/雑誌等[0]
- d. NIIメールマガジン[20]
- e. 友人・知人から[17]
- f. その他[8]

(媒体:先生からのメール案内 3、学会メーリングリストより 1、所属学会からのインフォメーション 1、ITSS メーリングリスト 1、会社のメール 1、学術総合センターでの配付 1)



2) 本日のワークショップ内容についてとその理由をお答えください。〔 〕内は人数 * 複数回答あり

a. 良かった〔35〕 b. 普通〔21〕 c. 良くなかった〔1〕 * 無回答〔2〕



①「良かった」を選んだ方のコメント

- 先日学術会議で行われたシンポジウム(e-science)よりも内容が多岐にわたり、興味深かったです。
- データの連携の方向の理解が深まった。
- 産学官からの発表者で構成されていたこと。ただ、「産」が少し少ないか。
- この分野の具体例を知ることができた。
- 異分野間でのデータに対する考えや、コンテンツ／データの定義の違いを知ることができた。
- 討論のテーマ設定に多少無理を感じましたが、皆さん説明がお上手で判り易く勉強になりました。
- 医療・保健・福祉データ連携のテーマで具体的な動きがわかった。
- データ連携について考えることができたため。
- 特許法の改正などが興味深かった。
- 今後の方針、方向性についての情報が得られた。
- 特に午前での概念的な提案がインパクトがあった。一方、午後の具体論は、上記の目標に向けての道程の遠さを感じるものであった。全体として面白いテーマ提案と思います。次回期待しています。
- データ連携の現状がわかった。
- データやコンテンツにおける多角的な見方を知ることができたから。
- 全体的な流れが理解できた。
- 法制度の立場から保護すべきものは何かといった根本的な問題が解説され、興味深かった。個別に決まった定義のように説明されることが多く、どこが問題かを掘り下げる機会にはあまり会ったことがない。
- 様々な分野における研究技術の課題について知ることができたため。
- 様々な分野の抱える問題を見ることができてよかった。共通の問題と分野ごとの問題がかなりはっきりしたと思う。
- 範囲が広すぎたが、そのくらい広い視野でコンテンツを考えるべきと認識しました。
- 講演時間が少なく、消化不良気味ではあるが、様々な分野の話題提供があり、データ連携に関わる全体像を知ることができてよかった。
- 知らなかった分野のことを学べた。
- 業務に携わっているだけでは分からない話が聞けました。
- 各先生の話の時間が短過ぎたという感はおおいにあるのですが、反面テーマにもそのような多様な内容の話が伺えて興味深かったです。希望を言えば、各討論の時間はもっと多くとってほしかったです。理由

は更に生きた言葉で語られる情報がまた興味深いからです。

- こうした新しいテーマについて、各領域の専門家がディスカッションする機会として大変有意義。
- 比較的、幅広いテーマが触れられていて見識が増えた点でよかった。
- 広い分野のお話が聞けてよかったです。
- 基本的なことが学べた。
- 他分野に渡って、広く知識を吸収できた。

②「普通」を選んだ方のコメント

- データ連携のスキームを提案することでビジネス機会があると感じた。
- 議論の時間が不足。
- 1回目ということもあり、発表されるテーマが多岐に広がりすぎたような気がします。すべての分野で展開するよりは、いくつかの分野にしぼってよかった気がします。
- テーマがひろすぎる！つながりが見えない(私の勉強不足のため)。セッションにわかれているが、どこおいてもよさそうな内容。
- 新鮮なテーマですが、直接身近に感じなかった。
- 米国では Google 等の動きも見逃せない。次回はずい企業との補間についてもテーマアップしていただきたい。

③「良くなかった」を選んだ方のコメント

- お一人の持ち時間が少なく、消化不良多し。

④「選択無し」の方のコメント

- 各々の講演者が一流の語り手であり、普段聞くことのできない話が聞けたのでよかったが、テーマが大きすぎて、一つにまとめてディスカッションするのは難しいように思った。
- 全体を見渡せたこと。

3) 今回のワークショップで印象に残った講演とその理由をお答えください。

講演名もしくは講演者名 []内は人数 *複数回答あり

- 科学データの国際連携の現状 脳情報科学データを中心として 臼井支朗(理化学研究所)[3]
コンテンツからデータへ 産業競争力強化の視点から 土井美和子(株式会社東芝)[2]
データ連携の技術進歩は？連想的情報アクセス技術ー検索から連想へー 高野明彦(国立情報学研究所)[8]
技術戦略マップ(コンテンツ分野)のコンセプト 村上敬亮(経済産業省)[7]
討論 コンテンツとデータの法制度的違いとは？分野毎のデータの性質から 須川賢洋(新潟大学)[4]
基調講演 分野を超えたデータ中心科学の推進基盤 坂内正夫(国立情報学研究所)[5]
データ連携の現状と課題 メディア・社会・文化 モデレータ佐藤真一(国立情報学研究所)[1]
放送コンテンツの研究開発とビジネス面の課題 八木伸行(NHK 放送技術研究所)[1]
音声データ利用の連携 音声資源コンソーシアムの現状 板橋秀一・山川仁子(国立情報学研究所)[1]
文化資源情報の研究機関間連携の課題 安達文夫(国立歴史民俗博物館)[1]
データ付加価値化 モデレータ山地一禎(国立情報学研究所)[3]
医療・保健・福祉データ連携の現状と課題 藤田利治(統計数理研究所)[4]
医療・健康データ中心科学の実際 データクレンジングとマイニング 倉本秋・片岡浩巳(高知大学医学部)[3]
新統計法にもとづく統計データの二次利用について 廣松毅(情報セキュリティ大学院大学)[5]
研究評価データのオーガナイズーション 孫媛(国立情報学研究所)[3]
討論 統計的データリンケージの方法と可能性 椿広計(統計数理研究所)[1]
データ連携の法制度課題 個人情報・プライバシーの視点から 鈴木正朝(新潟大学)[4]
データ連携セキュリティの課題 越前功(国立情報学研究所)[1]
時空間データと地域・文化データの連携科学 柴山守(京都大学東南アジア研究所)[2]
すべて[1]

理由

科学データの国際連携の現状 脳情報科学データを中心として 臼井支朗(理化学研究所)

- 脳科学における先端的なデータ連携の説明が興味深く、参考になった。

コンテンツからデータへ 産業競争力強化の視点から 土井美和子(株式会社東芝)

- センシングデータなどのデータを構造化することでビジネスになるということ。そこにアイデアを活かしてもうけることができる点が興味深い。
- 分かりやすくお話しただいたことはもちろん、お話の構成も大局～ブレイクダウンさせていきながらの所で自身に近づけて聞くことができました。

データ連携の技術進歩は？連想的情報アクセス技術ー検索から連想へー 高野明彦(国立情報学研究所)

- 高野先生の想・IMAGINEには期待しています。検索結果を要約→再検索の精度が上がれば、全自動でネット百科辞典、日本版 Wikipedia が作れるのではないのでしょうか。
- 方式論が興味深かったが、できれば現実的なステップについても触れてほしかった。
- 試してみたくなくなった。人間の連想行動に近い。
- 連想検索について関心があるので参考になった。
- 連想検索の進展が今後どうなるか楽しみ。
- 連想アクセスは、他分野の新しい考えだったので新鮮でした。

技術戦略マップ(コンテンツ分野)のコンセプト 村上敬亮(経済産業省)

- プレゼンが分かりやすかったので。
- 産業界全体の視野から講演は、下記参加目的にも参考度が高いと考えます。
- 少ししいた目で何が必要なのかを分析していたところ。

討論 コンテンツとデータの法制度的違いとは？分野毎のデータの性質から 須川賢洋(新潟大学)

- データについての法律的な知見が参考になった。
- データを利用する際に法制度の視点から見た「データ」の扱い方を聞くことができた。これまで、このような法的な視点からの意見を専門家から聞く機会が非常に少なかったのが印象的だった。
- 法的な面での見方は、あまり聞いたことがなかったので参考になりました。

基調講演 分野を超えたデータ中心科学の推進基盤 坂内正夫(国立情報学研究所)

- センサー技術の発達によりいろいろな行動分析ができる事例を紹介いただき、感嘆しました。
- 今回のワークショップのテーマを分かり易く、具体例を示しながら説明されました。
- 今後のベースについての情報が得られた。今後の研究はこれらの情報を基にして、進めることが一つであろう。
- 実例もあり、面白かった。
- 本WSの意義を簡潔にまとめられ且つ現実に存在する問題の例を示されている。

データ連携の現状と課題 メディア・社会・文化 モデレータ佐藤真一(国立情報学研究所)

- マルチメディア等、産業の面、実運用の面からの話が聞けたから。(ビジネスへの適用、応用)

放送コンテンツの研究開発とビジネス面の課題 八木伸行(NHK 放送技術研究所)

- データとコンテンツという点で一番課題に直面していると考えられるため。

音声データ利用の連携 音声資源コンソーシアムの現状 板橋秀一・山川仁子(国立情報学研究所)

- 音声データについて、実際の音を聞かせてもらい、イメージが把みやすかったが、データとして整理する難しさを感じた。

文化資源情報の研究機関間連携の課題 安達文夫(国立歴史民俗博物館)

- 人文科学(歴史学)専攻なので、これらの議論をつきつめていくと、出てくるだろうな・・・と思っていた問題をすばっと指摘されたので。

データ付加価値化 モデレータ山地一禎(国立情報学研究所)

- 最も興味がある内容だったから。
- 医療制度、将来の政府方針にも影響する情報であるため。国勢調査に影響が出るというコメントには、おどろき。ありえるかもしれない。

医療・保健・福祉データ連携の現状と課題 藤田利治(統計数理研究所)

- 福祉分野に興味をもっているため
- リンケージの問題点、事例が参考になった。

医療・健康データ中心科学の実際 データクレンジングとマイニング 倉本秋・片岡浩巳(高知大学医学部)

- データクレンジング例が参考になった。

新統計法にもとづく統計データの二次利用について 廣松毅(情報セキュリティ大学院大学)

- 「データ付加価値化」セッションの全体的内容をより理解することができました。
- 新統計法の情報
- 法的な面での見方は、あまり聞いたことがなかったので参考になりました。
- 2次利用の行く末が期待できそう。

研究評価データのオーガナイゼーション 孫媛(国立情報学研究所)

- 現在の業務に関わる講演だったので、非常に役立つ講演でした。

討論 統計的データリンケージの方法と可能性 椿広計(統計数理研究所)

- 統計データと個人情報保護の考え方「租庸調報」は、とても理解しやすいと思いました。「データ付加価値化」セッションの全体的内容をより理解することができました。

データ連携の法制度課題 個人情報・プライバシーの視点から 鈴木正朝(新潟大学)

- 一番知りたかった内容でした。
- 個人情報とかについて知らないことが多かったことが分かった。
- 少しひいた目で何が必要なのかを分析していたところ。

時空間データと地域・文化データの連携科学 柴山守(京都大学東南アジア研究所)

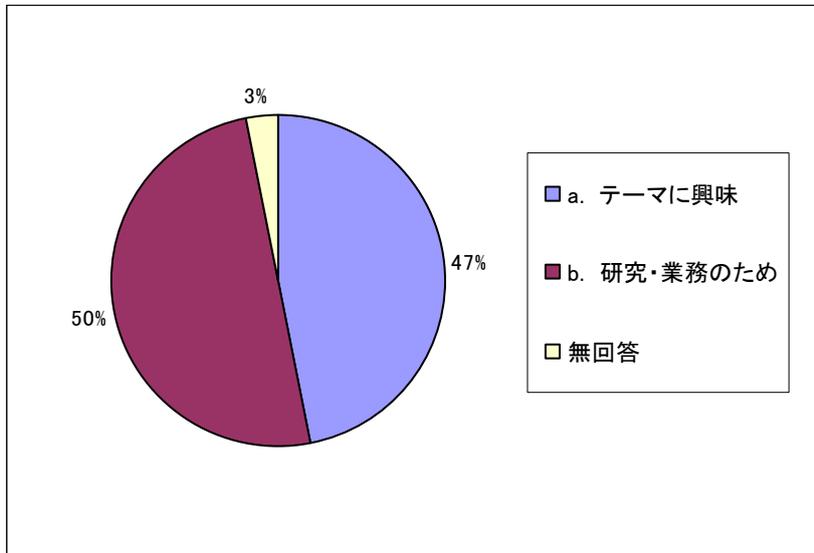
- データ連携に関する国際研究の難しさなどの現状を知れておもしろかった。

選択なし

- 全体としてよい。

4) 今回の参加の動機についてお教えてください。 []内は人数 * 複数回答あり

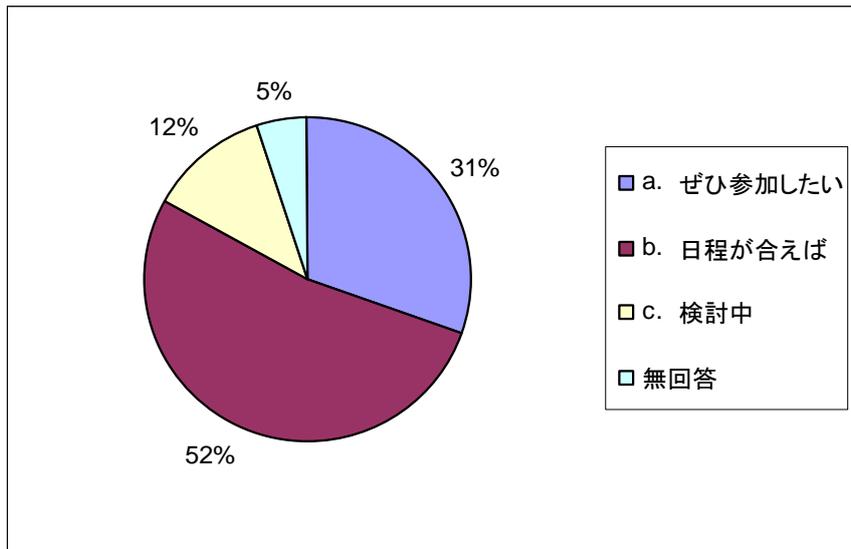
- a. テーマに興味があったため[30]
- b. 研究・業務に役立てるため[32]
- c. その他[0]
- d. 無回答[2]



- 大量データの連携、分析は現在注目しているサービスサイエンス工学にも通じるものと思いました。
- 情報流通基盤を運用しているがデータとコンテンツの活用について学術的に興味があったので。
- 「データ」という事(言葉)も多面性を持っているので全体すべてを勉強したかったので参加させていただきました。
- データ検索についての情報収集。
- 第1回は、今後の基調となることが想定されます。
- 会社(出向先)の教育担当です。社員の業務向上心／研修にマンネリ感があります。これを打開する何かを発見したく参加しました。
- データ連携に関わるツール開発を行っているために、他分野でどのような取り組みが行われているか興味があったため。
- 大学様の学術データ管理に関する業務に携わっているため。
- 同様の領域の研究に携わっているため。

5) 次回のワークショップにも参加したいと思いますか。

- a. ぜひ参加したい[18]
- b. 日程は合えば参加する[31]
- c. 検討中[7]
- d. 参加しない[0]
- e. 無回答[3]



6) 次回のワークショップで取り上げてほしいテーマがあればご記入ください。

- クラウドコンピューティング。
- 大量データ分析という点では、サービスサイエンス工学(SSE)とも関連してくると思います。今後、SSE の観点でのテーマを取り上げていただければと思います。
- 制度設計と合意形成手法。
- データ活用とプライバシー保護。
- アジアの研究者とのデータ連携をすすめる例、国際的なコラボの成功例/失敗例、DOIと(E-Science or リンケージ)。
- 機関リポジトリの質の向上と博士のクオリティ向上。
- 各研究者がデータを公開する場合、また利用する場合における法的および活用例の視点から見たガイドラインについての議論を聞いてみたいです。
- 検索技術、著作権クリア、収益モデルの確立、事業化。
- “データ付加価値化”の討議がもっと多くてよいのかと思います。Data sharing の価値は、集めるのが目的ではなく、集まったことから発生する付加価値だと思しますので、その点をもっと明らかにしていく議論があればよいと思います。
- 今回も海外との比較の議論は個々にいただきましたが、海外の現状を時間をゆっくりと取ってくださって解説ご議論いただきたい。
- 日本語版情報検索 Engine について、研究、政策、法律、事業といった視点から話しがあるとぜひとも参加したい。
- ライフログ(位置時刻情報)といわれる情報も同様に、Appli とは独立に個人個人から発生して、蓄積、再利用される情報と思うので、それについても視点をあててほしい。

- 具体的データ連携で成功した例など取り上げてほしい。
- ビジネスにおける統計、データマイニング。
- Focus 分野を決め、掘り下げてほしい。
- データ連携の課題に対する解決案、解決策の提示。
- open science の将来像。
- network(web)学会の可能性について。
- リポジトリ構築。
- メタデータとデータバインディング。
- 「教育のための」とあったが、あまりそのような視点がなかったように思う。残念だ。
- 新たな研究評価手法。
- 政府が収集しているデータの種類、利用(用途)と公開の範囲。例えば人口動態・経済指標のもとになるもの。
- 流通データの変化の現状。流通データの利活用など、様々なデータの活用法。
- フェアユースについて。
- データ連携と教育(企業教育)の関連／活用動向。
- データ付加価値化について、具体的手法を挙げて話題提供してほしい。
- 夫々の分野の現状、問題。
- データの標準化について。
- 総論と各論に分ける／レジメを予め用意する。
- 今回は法制度関係が多かったが、今回はアルゴリズム的な特集があればよいかもしれないと思われた。又、通信の秘密などについても取り上げてもらえるとういと思われた。
- 冒頭で文科系の方は「メタデータといってもわからない」というお話がありましたがまさにそうだと思います(でも業務に関わるので伺ったのですが)。ただ、人文科学のアノテーションこそ連想型検索に向くデータですので、情報学的には最先端でなくとも、すそ野を広げるための人文科学テーマのワークショップをしていただきたいです。
- CiNii について。
- 検索エンジンのデータ収集や連携。

7) 感想・お気付きの点などありましたらご自由にご記入ください。

- 設備がとても良いです。
- 情報提供ありがとうございました。講演資料と討論結果を公開時に連絡願います。
- 一時間の中で、四人の先生方の講演+ディスカッションはなかなか厳しいのではないかと思います。もう少しやりとりを聞きたいと思いました(せっかく集まっていたのにもったいないです)。…講演ではなく、「紹介」ですませてしまってもよいかも。
- スcopeが広く難しいと感じた。生活現場に役立つ具体論と合せての展開もよいと思う。「学術」的な立場と離れてしまうのかも知れませんが。
- 意図的に多方面の話をされたのかわかりませんが、その分1人の方の割り当て時間が少なくなり、浅い知識だけがInputされたように感じてしまいます。
- 臨床データの取り扱いなど知らなかったことを学べたのは収穫だったが。
- 講演者のプレゼンに力量差が大きかった。プレゼン能力も必要な能力だと思う。NIIのWebのMAPがわかりづらい。情報として不可だと思う。
- テーマ間の連携が未だ見えず、統一感が感じられなかった(特に前半部分)。メタレベルでのゴール設計努力とそれに合わせた講演企画(構造明示)が必要。
- 意外とデータとコンテンツの定義域が、述べられないまま、議論が進行する傾向があった。なぜ日本では、データの活用が進まなかったのかについての議論がなかったのか残念であった。(その上でこれからの議論では?)

- 会場が寒かった。
- テーマの幅は広すぎるように感じました。
- コンテンツとデータの問題は以前からあったと思うが、分野によりまちまちで統一的な議論ができるような素地がない。またこの問題は過渡的なものという印象がある。
- データ連携の観点からも本日の資料(ハンドアウト)も Web 公開してください。全体として企業にとってのデータ連携メリットがあまり感じられませんでした。
- テーマが広範すぎた。テーマ・分野をしぼるべきですね。データ、コンテンツにどんなものがあり、分野、共通性について全体像を議論する。それをまとめる。
- 大変楽しかったです。
- 圧倒的に時間不足。スピーカー、モデレータ間の事前打合せが不足(or 皆無)
- 時間に対して、やや講演内容が多いように感じた。
- 資料と表示スライドが異なっていて少し混乱する。
- 多様なお話が聞けて大変有意義でした。反面、特に討論の時間が足りないように感じました。
- 討論の時間をたっぷりとってほしい。

以上